

『娼婦の肖像—ロマン主義的クルチザンヌの系譜』

はじめに

第一部 「恋するクルチザンヌ」たち

第一章：原点としての『マノン・レスコー』

1. 男の「絶対的な愛」
2. 「恋するクルチザンヌ」のテーマの誕生
3. 女の「謎」の探究
4. ロマン主義作家たちのマノン・レスコー評

第二章：マルグリット・ゴーチエとマノン・レスコー

—アレクサンドル・デュマ・フィスの『椿姫』

1. 『椿姫』と『マノン・レスコー』の類似点
2. 自由を謳歌するクルチザンヌ
3. ブルジョワ道徳に束縛されるクルチザンヌ
4. 「心あるクルチザンヌ」と「心ないクルチザンヌ」

第三章：女性作家の描く、もう一人の「椿姫」—ジョルジュ・サンドの『イジドラ』

1. オリエンタリズムとクルチザンヌ
2. 「知的なクルチザンヌ」の登場
3. 「恋するクルチザンヌ」のテーマの変質
4. クルチザンヌの「老いの庭」

第二部 危険なクルチザンヌたち—バルザックの娼婦像

第一章：女の危険な眼差し—『マラナの女たち』

1. オリエンタリズムから逸脱したクルチザンヌ
2. 女の「ファルスの眼差し」
3. クルチザンヌと聖母マリア

第二章：クルチザンヌの栄光と悲惨—『娼婦盛衰記』

1. 「悪の詩人」としてのクルチザンヌ
2. 変幻自在のクルチザンヌ
3. 監視され、「物」化されるクルチザンヌ
4. 弱体化する男の力

第三章：恐るべき女のエネルギー—『従妹ベット』

1. 悪魔性を帯びる女
2. 父権制を脅かすクルチザンヌ
3. 「本物のクルチザンヌ」と「既婚のクルチザンヌ」
4. 悪魔祓いされるクルチザンヌ

5. バルザック独自のクルチザンヌ像

第三部 近代小説と公娼制度

第一章：「社会小説」に登場する娼婦たち—ウージェーヌ・シュアの『パリの秘密』

1. 「娼婦」の社会的定義
2. 『パリの秘密』の娼婦たち
3. シューの下級娼婦像の特徴
4. グリゼット（お針子）神話の虚実
5. シューの「娼婦」の象徴性

第二章：ユゴーの作品における娼婦たち

1. 純ロマン主義的クルチザンヌ、マリヨン・ド・ロルム
2. ラ・チスベに見るプロスティチュエへの視点
3. 「社会主義者」ユゴーの描く娼婦、ファンチーヌ
3. ユゴーの娼婦像から見えてくる女性観

おわりに

参考文献／和訳文献案内